

上 田 勉

双葉通信の読者から、「私は新聞の切り抜きではなく、上田さんが朝何を食べたのかを知りたい」というハガキが届きました。“人生は旅人”シリーズでは、私の趣味やライフワーク・思いについて書いていこうと思います。

3年ぶりに「只見ふるさとの雪まつり」開催される

3月11日と12日、奥会津の只見町で、コロナ禍から3年ぶりに「第50回只見ふるさとの雪まつり」が開催され、大勢の人達で賑わいました。前日の金曜日までは雪と曇り、翌日の月曜日からも雪と曇り、この土・日曜日だけが晴天でした。

会津バス観光のツアー

12日、只見線は混雑すると思い、会津若松駅発の会津バス観光のツアーで行きました。料金は3,000円です。乗客は少なかったですが、ガイドさんは親切に案内や世話をしてくれました。また、会津柳宮下駅から会津川口駅までは只見線に乗りました。電車は混んでいるかと思いましたが座れました。途中、「東北電力奥会津水力館みお里(り)」に立ち寄りしました。ここは「豊かな営みを育む “水脈のふる里” 奥会津」をテーマに、アートや映像など多彩な展示を通じて「水力発電の仕組み」や「只見川における電源開発の歴史」、「水力発電をはじめとする東北電力の再生可能エネルギーの活用に向けた取り組み」、そして「奥会津地域がもっているさまざまな魅力」を発信しているとのこと。また、只見川の水害は、豪雨時におけるダム放流調整の失敗だったのではないかと、とも地元では言われています。

只見線列車の雪像登場

舞台の雪像は、もちろん昨年10月に11年ぶりに全線開通したJR只見線です。橋梁を走る列車をかたどった高さ13メートル、幅30メートルの雪像です。只見線は2011年7月の新潟・福島豪雨による只見川の氾濫によって、3つの橋梁が流されました。そして、会津川口駅⇄只見駅間は、代行バスになりました。JR東日本は赤字ローカル線なので、廃止を提案しました。しかし、福島県や地元自治体の粘り強い運動によって、只見線は全線開通することができました。①鉄路はJRが復旧する。②上下分離方式(鉄路は福島県と地元自治体が管理・電車はJRが走らせる)になりました。地元の人達は、列車を見ると、手を振る運動を続けました。只見線は、“世界一景色の良い所を走る鉄道”として、世界からも多くの観光客が訪れます。

只見ふるさとの雪まつり

会場には「ゆきんこ市」の出店が並んでいます。私は、手打ちそばとおやきを食べました。舞台では、プロの芸能人による歌や漫才等が披露されました。また、飴が舞台から観客に巻かれました。仮設の休憩所がいくつかあります。石油ストーブが炊かれていて暖かいです。舞台が無い時は、私はここで新聞を読んだり、うたた寝をしました。



【雪像は橋梁を走る JR 只見線（只見町）[2023年2月12日撮影]】



【多くの模擬店が並ぶゆきんこ市—出店の様子】